

R06年度学校関係者評価（幼稚園）

学校評価（幼稚園）

教育目標（キリスト教精神に基づくバランスのとれた人間教育）

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価	
		評価点	幼稚園としての反省・改善策	評価点	意見等
1	教育目標	A	現在の状況を掴みながらも、四季折々の自然現象を知る体験などを多く取り入れるなど環境構成し取り組みは行ってきた。子どもたちが楽しい時間を過ごせるよう、教員同士の計画書を密にし子どもの成長につなげるようになってきた。	A	自己評価に同意
2	宗教指導	A	SRと共に、絵本や聖歌を取り入れ行ってきた。また、各行事を通して少しずつ知らせる機会とした。また、今年度は、クリスマスの聖劇を行う前に神父様の研修を教員で受け、意味理解を深め子どもたちに向き合ってきた。徳の花などの取り組みをして行いを通して神さまへの思いも深めた。	A	自己評価に同意
3	教育課程	A	こどもの興味関心、また発言から適切な環境を整えるよう、日々心掛けていた。今後ももっと子どもたちの思いに寄り添い行っていきたい	A	自己評価に同意
4	教科指導	A	支援が必要な子に対するの情報共有をし、様々な観点から考えていった。しかし個別対応が必要な子が増えてきて少々困難なことが多い。もっと専門性が必要だと思い、研修に行き理解を深めたり、専門教員を呼び、個別の対応プログラムについて指導を受けた。保護者への伝え方も難しさを感じている。	A	自己評価に同意
5	遊び指導	A	ドン・ボスコの姿として、常に子どもたちと共に遊ぶ姿を大切にしていた。身体を使って遊ぶ環境が必須であると感じた。（ケガをする子が多くなってきた）	A	自己評価に同意
6	行事	A	園の行事には、計画的にし保護者と共に盛り上げてきた。教員・保護者・子どもの全員が一体となり、どの行事も一つ一つがとて充実していたように感じる。子どもの貴重な体験となるようにし、それが園の教育内容に沿っている。	A	自己評価に同意
7	研修	A	教員の経験によってそれぞれの研修を受けるよう外部へ出かけ園内でも共有し日々の保育に生かしてきた。学園内の幼小中高の教員研修もとても有意義なものになっている。子どもの育ちを考える良い機会となっている。来年度は、園内の研修ももっと活発にしていきたい。	A	自己評価に同意
8	生活指導	A	教員同士の連絡、報告、相談の体制は整っていると感じる。特別支援に関しては、個別指導が必要な子が多くなっているのもっと考える時間が必要であると思う。	A	自己評価に同意
9	保護者とのかかわり	A	1年間の役員と固定してしまうのではなく、その時々でお手伝いとして保護者の支援を募り関わっていただくようにした。毎回多くの方が希望していただき行事を行ってきた。その事により、園の様子をご理解いただける機会になったと思う。	A	自己評価に同意
10	安全管理	A	健康面に関しては、感染性のことに限らず常に水分を取ることと手洗いを心掛け、預かり保育の時間にも共通して行ってきた。ほとんど感染性の欠席者は少なく健康に過ごせた。衛生面に関しても消毒等心掛けをしてきた。施設面に関しては、危険箇所を感じるとすぐに修繕や解決策を講じている。緊急時の避難に関しては、子どもたちはできるようになってきている。次年度には、不審者等にも迫った訓練方法に取り組んでいきたい。	A	自己評価に同意
11	分掌	A	教員の担当業務はあるが、できない所など声を掛け合い補い合いながら取り組んできた。時期によっては偏りが生じてくる時もあるため打合せで確認をとりながら助け合って進めてきた。	A	自己評価に同意
12	関連事業	A	午後の預かり保育に関しては、去年同様預かりの先生方の連携が調和よくとれていて、安心した場所となっている。子育て支援の一環として、アンジェリーナの開催をほぼ毎日にし、いつでも親子で遊べる場を提供した。数組ではあるが毎回通ってきて、幼稚園の様子をみたり聞いたりして、理解を深めていただいた。	A	自己評価に同意

R06年度学校関係者評価（幼稚園）

13	施設・設備	園の施設整備は子供たちが生活するうえで適切な環境として管理されている。	A	管理棟、遊戯室の老朽化に伴い、2025年1月から解体作業が開始された。教室の移動や園庭の利用に関して学園内の施設を利用し安心して生活できるように考えながら環境を整えている。子どもたちと新たなドン・ボスコハウスの完成を楽しみにしている。	A	自己評価に同意	
全般、総合評価		A	A	本園の教育方針、カトリック園としての取り組みは変わらず取り組んでいる。また社会の状況から求められる力・つけない力を踏まえた上で取り組んできた。今もこれからも子どもたち自身が疑問を持ち、考え判断し行動することを目標に環境と関わりを大切にしていきたい。幼児期の3年間または4年間の中で培われるものは、今後の成長に大きく影響してくると考えている。そのため、できる・できないの評価に囚われず、子どもの行いや目標を見定める目を教員が養うよう努め、声を聞き向き合ってきた。今後、子ども一人ひとりに目をむけた時、個別的な対応(カリキュラム)の取り組みが、必要になってくることも出てくるように感じている。教員それぞれがやろうとしている思いを大切に、園内の研修の時間をとるようにし、質の高い保育を目指していきたい。			自己評価に同意

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

今後に向けての考え方(学校関係者評価を受けて)

今回の評価は、特別なご指摘やご意見もありませんでしたので、今行っている幼稚園運営に賛同していただいていることとして捉えました。ただ、この評価に留まらず、その時のその子どもの本質を捉え、その社会の動向と、学園全体の流れを見ながら 新たな気持ちで取り組んでいきたいと思っています。

国が「幼児期までのこどもの育ちに係る基本ビジョン(はじめの100カ月の育ちビジョン)」が決定されました。全てのこどもの誕生前から小学校1年生の途中頃までの概ね100カ月から将来のウェルビーイングを目指しています。まさに幼稚園教諭も保護者とこどもに携わる者として成長の育ちを支えていく重要な役割を担っています。幼児期の大事な時として、子どもの発達に相応しい挑戦や、達成感を味わえるよう、行事などを中心として考え生活の中でやってみようとするのを支え、そこから分かることが増え 楽しかったという経験をたくさんさせていきたいと思っています。それには、今まで同様 保護者のご理解とご協力が必要にもなるため、保育参観、またはクラス手紙等を通して発信も丁寧にしていくことは変わりません。幼稚園一部改修作業に伴う状況を、安全に進め、今後のこととして新しくなる園庭が子どもの成長と発達に相応しいものとなるようにと考えていきます。保護者や周りの方のご意見をたくさん聞ける体制をもち、発達の特性を抱えた子への対応も行えるよう研修を積んでいきたいとも思っています。